**校長　溝端　茂樹**

**平成31年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| 総合学科として、多様な選択を生かし、主体的で充実した高校生活を通して自らの「夢」にチャレンジする生徒を育て、希望する進路を実現するための確かな学力が身につく「進学重視の総合学科」をめざす。**１　　夢チャレンジを具体化する教育活動の展開****２　　ともに学び、ともに育つ学校生活の充実****３　　主体的・対話的で深い学びの実現と、確かな学力の育成** |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| １　確かな学力の育成と授業改善**（１）新たな学習指導要領導入に向けての取り組み**　　　ア　新学習指導要領の完全実施に向け、2020年度中には教育課程編成を完了させる。　　　イ　志学を踏まえ、「道徳教育推進教師」を中心に道徳教育の充実に向けた取り組みを進める。**（２）授業の充実と授業改善**ア　授業の「研究協議」や生徒の「授業アンケート」を効果的に活用するとともに、教員間における「授業見学」を行い、「主体的・対話的で深い学び」をを意識した授業改善に取り組む。※「授業アンケート」の「授業に対する生徒の評価」の５項目において、肯定的評価の割合（平成30年度77％～86％）を2021年度以降は85％以上にする。**（３）自分の意見をまとめ、発表して、相手に（自分の）考えを伝える能力の向上**※生徒の「総合学科アンケート」における『コミュニケーション能力が身についた』（平成30年度74％）を2021年度以降は85％以上にする。**（４）基礎学力の定着と自ら学ぶ意欲・姿勢の涵養**ア　「学力生活実態調査」及び「堺東スタンダードテスト」への取組み及び結果分析を踏まえ、基礎学力の定着を図る。　　※「学力生活実態調査」における１，２年生のＧＴＺを共にＢ２（平成30年度　1年Ｂ２、2年Ｂ３）にする。イ　自主的な学習態度が身につく「勉強合宿」や「一日勉強会」等の取組みを行う。※「学校教育自己診断」における『学習に頑張ってきた』（平成30年度　1年51％、2年68％、3年80％）を2021年度以降1，2年生においては10％以上引き上げ、3年生は80％以上にする。ウ　学校行事を通して自主・自立性を育てる。※生徒の「総合学科アンケート」における『自主性を伸ばすことが出来た』（平成30年度75％）を2021年度以降は80％以上にする。**（５）政治的教養をはぐくむ**　　　ア　民法改正に伴う成人年齢引き下げなども踏まえ、政治的教養をはぐくむ教育を一層充実させる。２　安全で安心な学校づくり**（１）人権教育の推進**（生徒一人ひとりがそれぞれの個性を尊重しあう集団づくりを行い、人権を尊重する学校づくりを行う）ア　自立支援コースの充実を図り、「ともに学び、ともに育つ」学校づくりを推進する。イ　「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」に基づいた指導を行う。ウ　いじめの早期発見・対応、体罰防止など、生徒一人ひとりの人権を尊重する学校づくりを推進する。**（２）教員の人権意識の高揚**　　　ア　校内人権研修を一層充実する。※教員の「学校教育自己診断」における『人権教育の校内研修や学習会は充実している』（平成30年度77％）を2021年度以降は10％以上引き上げる。**（３）生徒の規範意識の醸成**　　　ア　インターネット等による人権侵害の防止や交通マナーを遵守する指導を徹底し、また薬物防止乱用教育に取り組む。※生徒の「学校教育自己診断」における『生活指導上のルールを守っている』（平成30年度91％）を2021年度以降95％にする。**（４）通学路の安全確保**　　　ア　行政とともに学校周囲の歩道整備を計画し、地域の理解・協力も得ながら2021年度までに完成をめざす。３　夢の実現にチャレンジする積極的な生徒の育成**（１）キャリア教育の充実**ア「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」「志学」「ホームルーム」の四つを通じてキャリア教育を充実する。イ　保育所、病院、老人介護施設等へのインターンシップの充実を図り、それぞれの職業への理解を深める。※生徒の「学校教育自己診断」のキャリア教育に係る満足度（平成30年度　１年88％、２年85％、３年88％）の水準を維持する。**（２）部活動の充実と学校行事への積極的な参加**ア　「部活動に係る基本方針」に則り、部活動を活性化すると同時に、適切かつ計画的な活動を図る。※部活動入部率（平成30年度80％）の前年度実績を維持・伸長する。イ　学校行事への満足度を高める。　　※「体育祭」「文化祭」の満足度（平成30年度「92％」「93％」）の前年度実績を維持・伸長する。**（３）生徒の対外活動の活性化と地域連携**ア　本校総合学科の特徴である「堺学」を通じて堺市が主催する各種イベントへ積極的に参加する。イ　部活動や授業において、地域の行事やボランティア活動に積極的に参加する。４　開かれた学校づくりの推進と情報の発信**（１）ホームページの充実**ア　学校の情報をタイムリーに保護者・生徒に提供するとともに、外部に対して学校教育活動の周知を図る。※公式ブログ等の更新頻度（平成30年度60回）を前年度比10％引き上げる。**（２）学校説明会の充実**ア　学校説明会、オープンスクール及び、ミニ見学会等の内容を参加者のニーズに合うよう充実させ、参加者増をめざす。※各種説明会の参加総数（平成30年度約1,300名）を2021年度は1,400名以上をめざし、内容についての肯定的評価90％以上を維持する。**（３）緊急時の連絡手段の構築と活用**　　　ア　緊急時等における生徒・保護者・教職員の連絡手段を構築し、その活用を図る。 |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［　　年　　月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
|  |  |

３　本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| １　確かな学力の育成と授業改善 | （１）新たな学習指導要領導入に向けての取り組み（２）授業の充実と授業改善ア 授業公開と授業アンケート等の活用イICT機器等を活用した工夫ある授業の創出ウ 高大連携・インターンシップへの取組み（３）自分の意見をまとめ、発表して、相手に自分の考えを伝える力の向上（４）基礎学力の定着と自ら学ぶ意欲・姿勢の涵養ア 基礎学力定着イ 講習等の充実ウ 学習関連行事への積極参加エ 自主学習習慣の確立 | （１）・各組織、教科等において「育む生徒像」及び育むべき学力の共通認識を図り、教育課程編成に着手する。・「道徳教育推進教師」を中心に全体計画の作成に取り組む。（２）ア・教員相互の授業公開、管理職の授業観察、研究協議等を通じて授業力を向上させる。・授業公開週間を設け教員相互が授業見学を行う。・管理職が授業改善に係る指導助言を行う。・教員自ら授業アンケート結果を検証し、「主体的・対話的で深い学び」の在り方を踏まえた授業改善に取り組む。イ・ICT機器等も活用した授業の工夫に努める。・ICT機器が利用できる環境整備を図る。・ICT機器を活用すると同時に教材の共有化を図り、授業準備等に係る業務の軽減にも努める。ウ・高大連携やインターンシップを充実させる。（３）・授業や集会において、自分の考えを発表したり他者の意見を聞いたりする機会を増やす。・授業の中でプレゼンテーションの機会を増やす。・校外の研究発表等に積極的に参加する。（４）ア・講習等で「学力生活実態調査」のやり直し（リトライ）を徹底し、国・数・英の基礎学力を定着させる。　・英語については４技能を伸長させる取組みを進める。イ・学年や教科が中心となり、補習・講習を充実させ、学習意欲を喚起する。ウ・校外でのセミナーや模擬試験など、様々な学習行事に自ら参加する姿勢を育てる。・「進学合宿」「勉強合宿」を充実させる。エ・自習室や進路指導室の活用及び、家庭学習を促す。 | （２）ア・教員の授業見学や研究協議への参加率90％　　　<Ｈ30-82％>・「授業アンケート」の「授業に対する生徒の評価」の５項目における肯定的評価80％<H30-77％～86％>イ・ICT活用した授業を実施するための必要機器購入・周年事業等の機会を捉え、整備計画に着手ウ・医療系大学高大連携講座参加者15名　 <H30-10名>（３）・総合学科アンケートの『コミュニケーション能力が身についた』75％<Ｈ30-72％>・プレゼンを取り入れた授業を全ての教科で行う。・総合学科アンケートの『自主性を伸ばせた』80％<H30-75％>（４）ア・１年２年共に第２回「学力生活実態調査」の３教科全てＧＴＺ「B2」<H30-１年B2，２年B3>　・民間英語資格検定試験に取り組む。イ・学校教育自己診断の『学習にがんばってきた』１，２年10％アップ、３年維持<H30-１年51％，２年68％，３年80％>ウ・「進学合宿（3年）」「勉強合宿（1，2年）」への参加者が共に30名　<H30-「進学」0名「勉強」13名>エ・学校教育自己診断の『家での学習時間がない』０％　<H30-１年24％,２年28％> |  |
|  | （５）政治的教養をはぐくむ | （５）・各学年共に「ＨＲ」「授業」「産業社会と人間」等の時間において、外部機関と連携して充実した政治的教養をはぐくむ取組みを行うとともに、消費者教育についての内容を盛り込む。 | （５）・各学年共に「指導計画」書　　　　　に定められた指導を完了する（１・２年５単位時間、３年３単位時間） |  |
| ２　安全で安心な学校づくり | （１）人権教育の推進ア 自立支援コース生徒と一般生徒との交流イ 合理的配慮への取組みウ 支援学校との交流活動（２）教員の人権意識の高揚ア 人権研修の充実イ サポート校としての実践推進ウ 教育相談体制の充実（３）生徒の規範意識の醸成（４）通学路の安全確保 | （１）ア・「自立支援コース」生徒と一般生徒の授業交流の機会を保障する。イ・生徒・保護者から配慮を求める意思表示があった場合は「合理的配慮」を行う。ウ・支援学校との交流会を一層充実させる。（２）ア・教職員の人権研修を充実させる。イ・支援教育サポート校として他校を支援する。ウ・教育相談体制を充実させる。また、そのことを通じて、全体で教育相談に当たる意識を醸成し、一部の教職員にのみ掛かる負担を緩和する。（３）・安全で安心な学習環境をつくる。・いじめ等の問題事象については、「いじめ防止基本方針」に則り、組織的に対応する。・ネット上のいじめ等が発生しないように情報モラルを育成する。・外部講師による講演なども実施し、交通ルール遵守の姿勢を育て、また薬物乱用防止教育に取り組む。（４）・堺市建設局と協議し、地域の自治連合会の理解・協力を得ながら学校敷地周辺の歩道整備を進める。 | （１）ア・「自立支援コース」生徒と一般生徒の交流授業の科目数を維持する。<H30-6教科>イ・不当な差別的取り扱いを生起させない。　・支援を必要とする生徒への取組みを継続する。ウ・夏の支援学校との交流会への参加者50名　　　　<H30-47名>（２）ア・教員の「学校教育自己診断」における人権教育関連項目の肯定率80％　　　　　　　<H30-77％>イ・他校への支援件数を前年度並みに維持。　<H30-17校44件>ウ・学校教育自己診断の『担任以外で相談できる先生がいる』の肯定率50％　<H30-1年40％，２年37％，３年59％>・教員の学校教育自己診断の教育相談体制の肯定率を維持。　　　　　<H30-92%>（３）・学校教育自己診断の『生活指導上のルールを守っている』95％　 <H30-91％>・学校のいじめ対応についての肯定的評価<H30-1年81％，２年86％，３年74％>・携帯電話やネット上のトラブルを生起させない。（４）・歩道整備計画推進に係る要望書を再度提出する。 |  |
| ３　夢の実現にチャレンジする積極的な生徒の育成 | （１）キャリア教育の充実ア 教科・科目の連携イ インターンシップの充実（２）部活動の充実と学校行事への積極的な参加ア 「部活動に係る基本方針」の順守と体罰のない充実した部活動指導イ 学校行事の活性化（３）生徒の対外活動の活性化と地域連携 | （１）ア・生徒の進路実現に向けて「産社」「志学」「ＨＲ」「総合」の有機的な連携を図る。・「志学」において大学や専門学校への説明会等への積極的な参加を図る。イ・保育所、病院、老人介護施設等へのインターンシップの充実を図る。（２）ア・「部活動に係る基本方針」に則り、生徒・教職員両者にとって適切な部活動を進める。・体罰のない部活動指導を行い、充実した部活動運営を行う。・部活動の入部率を上げる。・地域の中学校との部活動交流を積極的に行う。イ・「体育祭」「文化祭」「クラスマッチ」等、生徒が自主運営する学校行事を活性化する。・生徒会活動や各種学級委員会活動を充実させる。・修学旅行の継続的実施に向けて取り組みを進める。（３）・地元の小学校との交流を充実させる。・堺市の観光協会や博物館が主催する行事にへの参加を促す。・地域のイベントへの参加や、ボランティア活動への参加を促す。 | （１）ア・学校教育自己診断における「キャリア教育」に係る満足度90％　<Ｈ30-1年88％，２年85％，３年88％>・「大学訪問レポート」提出率100％を維持 <H30-100％>イ・保育所、病院、老人ホームへのインターンシップ参加者延べ数30名<H30－24名>（２）ア・体罰ゼロの継続・「近畿大会」以上へ出場するクラブを増やす。<H30－３クラブ>・部活動入部率80％以上維持<H30－80％>・中学校との部活交流を行う部活動を増やす。（３クラブ以上）<H30－２クラブ>イ・「体育祭」「文化祭」に係るアンケートの満足度95％<Ｈ30－「体育祭」92％、「文化祭」93％>・生徒の各種委員会を毎月１回以上行い、活動内容をＨＰ等に掲載する。（３）・地域の小学生との授業交流を続ける。・「堺学」の授業発表や堺市が主催する各種イベントへの参加を年間３回以上行い「学びの質」を高める。<H30－４回>・地域のボランティア活動への参加者数10%引き上げる。<H30-121名> |  |
| ４　開かれた学校づくりの推進と情報の発信 | （１）ホームページの充実（２）学校説明会の充実（３）緊急時の連絡手段の構築 | （１）・ホームページを頻繁に更新し、学校情報を積極的に発信して在校生やその保護者、中学生やその保護者に必要な情報を提供する。・緊急時の情報提供にホームページを活用する。（２）・学校説明会の内容を見直し、ミニ見学会等も合わせて参加者のニーズに合うよう充実を図る。・中学校や教育産業からの要請による「学校説明会」等に積極的に参加する。（３）・安否確認等に応用できる緊急時の連絡網を構築し、運用を図る。・双方向性を生かし、遅刻連絡等にも活用する。 | （１）・ホームページへの年間アクセス数10万件以上<H30-97,000件>・更新回数10％アップ<H30-60回>・公式ブログ数10％アップ<H30-58本>・校長ブログ数10％アップ<H30-64本>・各クラブページの更新年１回以上（２）・学校で実施する各種説明会の参加延べ数10%アップ　<H30－約1,300名>・中学校等への出張「学校説明会」15件　<H30－13件> |  |